

全国学力・学習状況調査

下山田小学校

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

□ 平成29年度4月、全国学力・学習状況調査において、「国語A:104.9、国語B:100.0、算数A:101.1、算数B:100.5」を上回る。

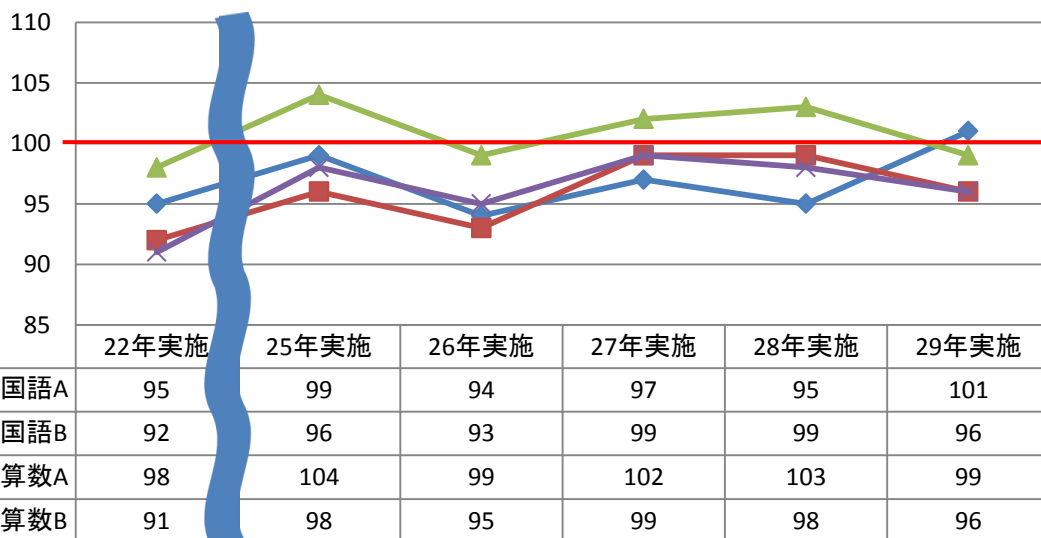
3.指標に向けての取組

- 朝のチャレンジタイムで「活用力」を高める問題に取り組ませる。(指導は、複数体制。)
- 習熟度別分割授業による少人数指導の計画的な実施を行う。
- 長期休業明けのテストの分析を踏まえ、復習・習熟を図る。
- 漢字検定・算数検定の実施。
- 3学期実施のCRT検査の誤答分析を踏まえ、補充を行い習熟を深める。

4.調査結果(全国の平均正答数を100とした標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	101	96	99	96
嘉麻市	98	98	99	98
全国	100	100	100	100

推移



5.各学校における分析

- 国語Aは、標準化得点に直した場合、全国平均を1点上回り、国語Bもあと1点で到達するところまで迫ることができた。反面、国語B・算数Bは、全国平均に対し-4点の開きがあった。要因として、「基礎基本」の徹底した取組は概ね実を結んだが、「活用力」育成のための授業改善への取組等が不十分であったことが考えられる。
- 国語B、及び、算数B共に、「必要な内容を整理したり、自分の考えを書いたりする書く能力」(記述式)の差が大きい。また、児童質問紙では、多くの子ども達は、「時間が足りなかった」と回答していることから、読む力の育成も不足していることが分かる。
- 児童質問紙から、平日、家庭学習時間「10分×学年数+10分」を実行できている子ども達が約6割、土日は、約5割に止まっていることが分かる。家庭学習についての見直しが必要である。

6.各学校における今後の取組

- 日常の授業における「根拠に基づいて自分の考えを書く」活動及び、それを基として「自分の考えを説明する」活動の推進。《新規》
 - 基礎基本の確実な定着のための取組(漢字・算数検定の実施、朝の活動の工夫等)の継続、及び、単元テストの結果を踏まえた補充学習の確実な実施。《継続》
 - 平日の家庭学習時間「10分×学年数+10分」、及び週末課題の徹底。(日々の達成率80%以上)
 - ・家庭学習や週末課題に、過去問やフォローアップシートの効果的な活用。(月曜日の提出率80%以上)《新規》
 - ・家庭学習頑張り週間の定期的な設定(学期に1回)を行う。《新規》
- ※上記の取組の実施状況(進捗状況)を確認する近接学年会の定期的な実施。《新規》

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修における授業参観指導を実施する。
- ◆ 基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個の学習課題に応じた週末課題の個別化を推進する。